

【総合基礎科目領域/共通基礎科目群】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
心理学	NLA21_004	選択	2	2	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
前川 真奈美	教員控室	kango	随時 Teams で質問等受付		
授業の目的・概要	<p>&lt;目的&gt;心理学の全体像を理解し、自己理解、他者理解に活用できるようにすることを目的とする。日常生活、ひいては看護過程に応用するための基礎的理解を身につけることが目標である。</p> <p>&lt;概要&gt;同時双方向授業(遠隔授業)で展開する。心理学の各領域を概観し、自己理解、対人援助に応用できるよう具体例を交えて解説する。Teamsの課題機能を用いたワーク等を用いて、受講生同士の意見交換の機会を設けながら理解を深める。</p>				
授業形式・方法	<input type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク				
学習上の助言	ワークへの回答や指名による発言を求めながら進めるため、積極的に参与すること。講義内容に関する疑問が生じた場合にはそのままにせず、講義中の質問やリアクションペーパーを活用し、理解を深めること。				
教科書	教科書は指定しない。必要に応じて資料(PDFファイル)を配付する。				
参考書	系統看護学講座 基礎分野 心理学 第6版/著:山村豊、高橋一公/医学書院/2017年				
外部教材	なし				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	心理学の諸分野の基本的な概念を理解し、体系的に説明できる。			HSU (2)	
②	心理学に基づく対人援助の方法と実際について理解し、体系的に説明できる。			HSU (2)、(3)	
③	本講義で習得した内容を自分の経験と結びつけ、自分の専門性に応用できる。			HSU (1)、(5)、(6)	
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	オリエンテーション 心理学とはどのような学問かについて学ぶ。	同時双方向型授業	2		
2	感覚・知覚心理学:人は世界をどのようにとらえているのかについて学ぶ。	同時双方向型授業	4		
3	認知心理学:記憶のしくみについて学ぶ。	同時双方向型授業	4		
4	学習心理学 1:行動が変化するしくみ(古典的条件づけ)について学ぶ。	同時双方向型授業	4		
5	学習心理学 2:行動が変化するしくみ(オペラント条件づけ、社会的学習)について学ぶ。	同時双方向型授業	<予習> 「学習内容等」欄に書かれたキーワードについてインターネット等で調べる。		
6	欲求と動機づけ:「やる気」のしくみについて学ぶ。	同時双方向型授業	4		
7	感情・情動:感情のしくみについて学ぶ。	同時双方向型授業	4		
8	パーソナリティ心理学:パーソナリティをとらえる枠組みについて学ぶ。	同時双方向型授業	<復習> これまでの自分の体験を振り返り、講義内容と合致する現象を見つける。		
9	発達心理学:心の発達について学ぶ。	同時双方向型授業	4		
10	社会心理学 1: 集団(他者の存在)が個人に与える影響について学ぶ。	同時双方向型授業	配布資料をもとに講義内容を整理し、リアクションペーパーを提出する。		
11	社会心理学 2:社会的態度の形成と変容について学ぶ。	同時双方向型授業	4		
12	臨床心理学 1:精神分析、クライアント中心療法について学ぶ。	同時双方向型授業	4		
13	臨床心理学 2:認知行動療法(行動的技法)について学ぶ。	同時双方向型授業	4		
14	臨床心理学 3:認知行動療法(認知的技法)について学ぶ。	同時双方向型授業	4		
15	これまでの学習の総括を行う。	同時双方向型授業	全体の学びをまとめ、リアクションペーパーを提出する。		
試	定期試験 達成度評価・評価のポイントを参照				

【総合基礎科目領域/共通基礎科目群】

達成度評価							
総合評価割合(%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		70	0	0	0	30	100
総合力指標	知識・技術力	45	0	0	0	5	50
	思考・推論・創造する力	20	0	0	0	10	30
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	5	5
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10
問題を発見・解決する力	5	0	0	0	0	5	
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点				フィードバックの方法	
試験	①	✓	講義内容の理解度について、学期末に定期試験を実施し評価する。定期試験では、心理学の専門用語について問う選択問題と、講義で扱った心理学の知識をもとに自らの考えをまとめる論述問題を出題する。(70点満点)				Teams を利用して、総評や個別のフィードバックを行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	毎講義後に Teams 上でリアクションペーパーの提出を求める。講義内容に関する気づきや考察が具体的に記述されているかを評価する。(全15回、各2点満点で計30点満点)				講義中にフィードバックを行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
他担当教員	なし						
教員の実務経験	公認心理師資格を有し、2年の心理査定業務の経験がある。						
実践的授業の内容	専門性とこれまでの経験をもとに、受講生がイメージしやすい具体例や実践的な情報を交えながら授業を進める。						
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>本授業では、ワークやアンケートへの回答、指名による発言などを通して授業への参加を求める。これらに回答がない、または指名時に反応が確認できない場合には、授業への参加が確認できないものとして、欠席・遅刻・早退のいずれかとして扱うことがある。やむを得ない事情がある場合には、速やかに教員へ相談すること。</li> <li>自らの考えを記述する課題(ワーク、リアクションペーパー、筆記試験の論述問題等)において、生成AIの出力結果を利用することを禁止する。これに反した場合は評価の対象外とする。</li> <li>Teams を用いた同時双方向型の遠隔授業を行う。授業時は通信容量が無制限のWi-Fi環境を推奨する。</li> </ul>						